

洋書輸入協会会報

VOL. 24
NO. 6

(通巻278号) 1990年 6 月

理事会報告

4 月26日(休)

(一) 会員の社名、住所、代表者の変更

新 社 名 : Feffer & Simons, Baker & Taylor
International (旧社名 : Feffer & Simons,
a Baker & Taylor Co., Tokyo Office)

新 住 所 : 〒106 港区麻布台1-4-3 フェニックス
ビル(電話 : 586-8960 Fax : 505-5850)

新代表者 : 後藤 明美

社 名 : Maxwell Macmillan International Pub-
lishing Group (代表者 加藤勉)

Pergamon Press Japan (代表者加藤勉)

新 住 所 : 〒160 新宿区西新宿1-7-1 松岡セン
トラルビル 8 階(電話 : 342-7535
Fax : 342-7028——何れも変更なし)

(二) 定時総会

(1) 「定時総会関係書類の送付について」(案)

(4月27日付けJBIA No.602)を審議ののち承認し
た。

(2) 「1990年度定時総会順序」(案)

審議ののち承認した。

(3) 「理事会報告」(案)

審議ののち、若干の訂正を加えることとして承認し
た。

(三) その他。

5月16日(休)

(一) 定時総会

(1) 「理事会報告」(案)

訂正を加えた案を承認した。

(2) 議事次第

審議ののち承認した。

(3) 「収支主要項目の推移」

上記グラフを審議ののち承認し、出席者に配付する
こととした。

(二) その他。

おしらせ

メイナード出版株式会社は下記のとおり移転しました。

新住所 : 〒160 東京都新宿区西新宿1-7-1

松岡セントラルビル 8F

電 話 : 344-4181 (代表)

F A X : 344-6809

日経B P販売株式会社は下記のとおり移転しました。

新住所 : 〒101 東京都千代田区神田小川町1-1

(三井小川町ビル 4F)

電 話 : 233-8095 (変更なし)

F A X : 292-8958 (変更なし)

理事会報告	1	東京の坂と橋と文明開化(3)	6	広 告	8
定時総会報告	2	Letters to JBIA その二	7		
洋書輸入協会史(52)	4	ダイレクトリー委員会からのお願い	7		

定 時 総 会 報 告

1990年度定時総会は、5月16日(木)午後2:00から、学生会分館(本郷)にて開催された。正会員100社のうち、出席40社、委任状37社、合計77社にて総会は成立。その後の出席13社、賛助会員の出席は2社であった。司会者、栗原氏(洋販)の開会のことばののち、海老原理事長から大要次のような挨拶があった。

「日本経済は、株価低落、円安、金利上昇など、今までとはちがった兆しが感ぜられるがまだまだ好況裡に推移し、世界経済も拡大基調にあると見られる。こうした状況下にあつて当業界だけが、いま一つといった環境で、厳しい競争条件をしのいでも仲々市場拡大につながらない。

教育機会の拡大や、高学歴化に伴う学習需要は、年間28兆円の市場規模が予想されている。しかし、本の占める位置が、教育、学習、情報提供のためのかつての位置から大きく変ってしまった今日、従来のやりかただけではこの厳しい環境を乗り切っていくのは難しいのではないかと考えざるを得ない。

それに加えて、先の日米構造協議に見られるように、外国資本の日本市場拡大を求める声に抗しかねて、関係省庁は外資導入を促進するガイドラインを出しており、これが業界の主要顧客である大学図書館の姿勢にも大きく影響してきた。

輸入書籍、雑誌の需要をいかにして増やすか、ドル高、円安の変化条件にどう対応するか、業界の主張をどうPRするか、等々対応を迫られる問題が山積している。

当協会は来年創立50周年を迎える。単に半世紀を回顧するだけでなく、新しい展望をつくりあげるために、会員各位の大胆率直な発言、討議を期待する。」

ついで理事会報告にうつり、小林理事長代理から、理事会は会員各社の繁栄のため、また実力ある協会実現のため活動してきた。この一年は多事多難な年であったが、理事および委員各位の活発な活動を通じて、協会の活性化にご協力いただいたことに感謝するとの挨拶があった。主な報告事項は次の通り。

1) 為替の推移は、昨年4月平均ドル相場TTSで¥133.11

で前年比5.7%高で漸く鎮静化の方向であった。しかし、総選挙後反転し、本年4月は平均¥159.49で前年同月比¥26.38 19.8%のドル高の局面となり、それに連動して欧州通貨も一段と高くなった。4月のパリG7および今月6日のワシントンG7で円安抑制に言及があり、それを反映してか先週末より円高傾向となり、先行き不透明な状況が続くと懸念される。いずれにせよ注意深く見守っていききたい。

2) 消費税の転嫁・表示方法のカルテルを結成して一年が経過した。当初危惧していた水際課税は関係各位のご努力で大部分が通関時免税となり、転嫁などに社会的に混乱があったものの、比較的にスムーズに対応できていると思う。

和書流通の大部分が「税込価格」(定価)となったことで洋書業界にも影響を与えており、各社で条件に応じた対応策をとらざるを得ないが、基本はカルテル結成の原則に立つことである。

この消費税カルテルは来年3月に失効する。継続または新たに行うことは認められず、以降は各社の自主的な判断・方法で行うことになるので充分ご承知置き願いたい。

3) 洋書輸入協会の事業・活動の基本組織である各委員会は、役割分担を明確に位置づける必要から新組織に変更し、多くの会員のご参加をいただいた。

協会を社会的に認知させるための国内外への広報活動をはじめ、各委員会の活動は、各委員長からご報告申し上げるが、今年は創立50周年に向けての準備期間として一層の活動を期待している。

4) 第一回東京国際ブックフェアが、2月27日から3日間、晴海で開催され、世界27カ国から280社が参加した。協会も後援にあたり、組織・機能、洋書の流通機構などの説明および、セミナーでの後援をおこない、またシンガポール出版社ミッションと懇談した。

5) フランクフルト・ブックフェアは、今年は日本年でありヨーロッパの学術・文化を洋書輸入を通じてわが国に紹介してきた協会の存在を、広く各国へ知らしめる絶好の機会である。理事長が「フランクフルト日本年委員会」の委員に就任しているので、従来にも増したご協力をお願いしたい。

- 6) 海外出版物購入代金の支払いに充てる外貨預金は、協会でまとめて申請する包括申請によって利用範囲が一段と広がった。今後とも活用していただきたい。
- 7) 協会の財政は決算報告の通り苦しい内情である。数年間続いている慢性的な赤字を解消するには、約10年間据置かれている会費の値上げをお願いせざるを得ない状況である。議案としご提案申し上げてあるので、よろしくご審議願いたい。

ついで各委員会報告にうつり、総務（丸善・松井氏）、会報（極東・一條氏）渉外（ユサコ・山川氏）、広報（第一出版貿易・佐々木氏）、事業（中央、前橋氏）、ダイレクトリー（東光堂・石内氏）、経営研究（洋販・栗原氏）、文化厚生（三洋出版貿易・武田氏）、消費税特別（丸善・尾内氏）から、それぞれ活動報告がなされた。

ついで1989年度決算報告が松井氏によってなされ、高橋氏（南江堂）、山縣氏（内外交易）の監査報告ののち、拍手で可決、承認された。

ついで丹羽氏（緑書房）から関西支部報告、1989年度関西支部決算報告がなされ、いずれも拍手で可決、承認された。

ついで会費値上げ案が提案され、小林氏、松井氏より提案理由の説明があり審議ののち拍手をもって可決承認された。

ついで選挙管理委員会（委員長、医学書院・石原氏、委員、海外出版貿易・田中氏、マテマティカ・福本氏、メクレンブルグ・鈴木氏、ナウカ・清水氏、東京洋書・木原氏、トッパン・関野氏、UPS・上杉氏、事務局・柴田氏）により役員選挙にうつった。一時休憩ののち石原氏から開票結果が発表されたが、当選者は次のとおりであった。

理事 投票総数 68票 有効 67票

当選 丸 善 紀伊國屋書店 三洋出版貿易
洋 販 中央洋書 極東書店
日本出版貿易 第一出版貿易 東光堂書店
ユ サ コ 国際書房

次点 U P S

監事 投票総数 68票 有効 66票

当選 内 外 交 易 南 江 堂

次点 紀伊國屋書店

理事（関西支部） 投票総数 14票 有効14票

当選 緑 書 房 北尾書籍貿易

次点 オーヴィス

監事（関西支部） 投票総数 14票 有効 14票

当選 オーヴィス

次点 緑 書 房

総会を一時休憩して新理事会が開催され、互選の結果丸善が新理事長に再選された。小林理事長代理から、「海外出版物輸入同業会として19社で呱呱の声をあげて以来、戦後まもなく9社で再発足し、爾來幾多の困難を乗り越えて、今日115社にまで発展した。この発展がそのままわが国の学問、産業、文化の発展の基礎につながった誇りある業種、業界であると言えると思う。この歴史を踏まえて新しい時代の要請に応えられる協会に育成すべく努力したい。」との挨拶があった。

ついで松井氏から、1990年度予算案が、丹羽氏から1990年度関西支部予算案が出され、いずれも拍手をもって可決、承認された。

以上の議事が終了したのち、吉本氏（紀伊國屋書店）が閉会の挨拶に立ち、「現在わが業界は内外ともに幾多の難問に直面しているが、その解決には各社の一致協力と発想の転換しかない。

1990年代の定時総会は、前年度の活動報告も必要であるが、それ以上に当年の方針、運営計画の討議に重点を移すようにすべきではないか、フランクに対話出来、知恵を出し合える環境作りをめざしたいと思う。」旨を述べ、総会を閉じた。

そののち、恒例の懇親パーティーにうつり、石内氏の音頭による乾杯で宴を開き歓談のひとつきをすごした。

洋書輸入協会史 (52)

洋書輸入協会顧問 相良廣明

57 海賊版（盗版）問題（第二次）（前号よりの続き）

57.11 教文館北村会長（自民党代議士）へ著作権国内法改正促進方を依頼

海賊版対策のために、著作権国内法の改正促進を陳情していた同業会は（JBIA会報Vol.24 No.2、1990年2月号所載、協会史5057.7参照）、前述の高津代議士と懇談した上で文部省著作権課を訪問した。そして罰則だけでも先に法改正出来ぬかと打診したが先ず不可能との返事であった。

これは、高津代議士による昭和32（1957）年3月27日の国会質問の際に、福田政府委員の答弁にあったように、著作権制度審議会で全面的改正を取り上げていたからである。しかし同業界側としては、全面的改正ではいつになるか分らぬ、海賊版対策は焦眉の急であるとの見解のもとに、同年5月17日に今度は高津代議士と高田秘書を同業会理事会に招き、罰則強化の法改正の促進につき、じっくりと意見を伺った。

その結果は、議員立法が適当であろうということと、そのためには国内外へのPRと世論の喚起、及び自民党代議士への働き掛けが必要であるということであり、同氏の示唆もあって我々同業会の理事である教文館の北村徳太郎会長へお願いしようという話が持ち上がった。燈台もと暗しとはこのことで、北村会長は国会の文教委員会の委員でもあった。

このことは、5月22日の同業会総会で早速報告され、更に6月6日には北村会長と理事一同とが懇談の機会を持つことが出来た。北村会長は親和銀行の頭取でもあり、懇談は同銀行会長室で開催された。

北村会長へは、先般来の高津代議士との懇談の経過を報告、法改正への協力方をお願いした。これに対し北村会長から、「これは党派の問題ではないので、出来るだけ尽力しよう。先ず趣旨を分り易く書き、パンフレットとして50部持ってきて貰いたい。必要箇処に配付してあげよう。次に主管が文部省であるので、稲葉政務次官、福田社会教育局長、太田著作権課長に面会し、趣旨を良く説明の上善処を要望するように。」とのことであった。

これを受け、理事会としてはその足で太田著作権課長

を訪問、その紹介で福田局長にも面会でき、早速6月8日に稲葉政務次官との面会の約束が取りつけられた。このようにとんとん拍子で事が運んだのは、勿論北村会長のバックアップがあったためである。

57.12 自民党代議士稲葉修政務次官訪問

6月9日、同業会の理事一同（丸善 吉田常務、田辺課長、紀伊國屋 相良課長、国際書房 服部社長、教文館 西村部長、日本洋書販売配給 渡辺社長）で文部省政務次官室に稲葉政務次官を訪ね趣旨を陳情した。

同氏からは、著作権国内法の罰則を何故早急に改正し、かつ重くしなければならないかを、出来るだけ分り易く書いたパンフレットを作り、文教委員をはじめとする政界首脳部に配付し、周知して貰うことが重要である。必要なことはどしどしやるべきで、やらない方にも落度があるとの話であった。

次に文部省の福田局長、太田課長を訪ね政務次官の話の様子を伝えつつ陳情を重ねている。そして同業会としては早急にパンフレットを作りPRに取りかかることを決めると共に、6月18日付の海輪第25号で、会員宛に「盗版防止運動中間報告」を配付している。

57.13 罰則規定改訂の用意出来る

6月末から7月にかけては、日本著作権協議会と同業会の間で、海賊版撲滅対策のことや、著作権法の全面改正か或いはとりあえずの罰則強化かなどのことについて討論が持たれ、また関西の同業会とも懇談会を開いている。

そのうちに北村、稲葉両代議士より話のあったPR用のパンフレット原稿も出来上がった。一方で法改正の検討は文部省を主体として行われていたが、ようやく11月22日に文部省の太田著作権課長よりの連絡があった。

即ち、著作権国内法の罰則規定を変更する用意が出来、法務庁との打ち合わせも済んだので、同業会として国会の文教委員と連絡の会合を開き、議員提案を依頼されるとよからうとのことであった。翌23日には福田社会教育局長よりの連絡もあり、同業会理事は早速北村徳太郎氏

との面会の準備を整えた。

約束の当日である11月25日には、アメリカから帰任したばかりの丸善 桜井氏と、教文館の専務武藤氏も参加したが、あいにくと北村会長が急な風邪のため入院、代りに熊谷秘書と打ち合わせた。

熊谷秘書は、罰則規定強化及びその議員提案についても了解されたが、そのためには自民党の稲葉代議士と同業会とが打ち合わせ、この件についての同氏の承諾を得るようにとの指示があり、その面談の段取りをつけてくれた。

11月26日、第二議員会館において、文部省太田著作権課長と共に同業会理事一同で稲葉修代議士と面会、次のようなお話があった。

1. この法改正には、自民党と社会党の共同提案が必要。
2. 議員立法の提案者には、北村徳太郎代議士が適当である。
3. 自民党政調会文教部長の高村代議士、理事の伊藤、坂田、竹尾代議士、社会党の文教委員長の高谷川代議士、委員の佐藤、河野代議士へ連絡をとっておくこと。
4. 北村、稲葉両氏とも、年末から年始にかけブラジルを訪問するので、帰朝後次期国会へ提出という運びとなろう。
5. 同業会作製の趣旨説明の原稿はこれでよろしい。なるべく多数作ってPRに努められたい。

同業会としては、その後文部省の太田著作権課長と密接に連絡を取りつつ事を進めると共に、12月18日に同業会の懇談会を開き経過を報告している。

57.14 「洋書の盗版についてお願い」

同業会理事会にて、委員会を設けて作製した著作権国内法の罰則強化についての趣旨説明書は、タイトルを頭記のようにつけ、昭和32（1957）年12月付でパンフレットとした。全文は1,700字に及ぶのでその要点のみを次に記しておきたい。

記

「お願い」は、まず海賊版の名前の由来から説き起こし、今日これと同じ不法行為が我が国においても行われていること、いずれも例外なく国際信用を失墜していることを述べ、国際連合に加盟し、万国著作権条約に加入

している日本としては、この不法は国際的裏切行為であると断じている。

次に、外国の被害出版社は、それぞれ嚴重な抗議を我が国に送ってきており、例えば米国の理・工・医学出版協会の会長であり、ジョン・ワイリー出版社の副社長であるマシーソン氏は、英・独・蘭等の各出版社に呼びかけて、それぞれの自国政府を通じ、その在日公館を一九として、日本政府に嚴重な取り締まりを要求しているなどのことを記している。

また東大の東畑教授の最近著「アメリカ資本主義見聞記」には、同教授が日本の生産性本部で編成した米国家産視察団の一員として、米国のマグロウヒル社を訪れた際、同社社長よりわが国の海賊版の出版につき、我が国の出版業界全体に対する不信の念を表明されたことが書かれていることもつけ加えられている。

それから、3月22日付の毎日新聞の「国際信用を落とす」の記事、3月27日の衆議院文教委員会においてこの問題が取り上げられたこと、欧米において開催される国際学術会議において、これに参加した我が国の学者が不名誉な思いをされたことなどに言及している。

そして、我が国の海賊版の現況、ことにその出版物の範囲、写真版復刻とその配付状況、出版点数、価格を説明した上で次のように結んでいる。

「これらは現行著作権法の罰則が、このような不正行為に対し問題にならない程軽いという点にあると考えられます。よりましてこのまま放置致しますれば、ますますこの種の行為を誘発し、その結果国際不信を増大させ、正当なるわが国の通商貿易にも悪影響を及ぼすことさえ予想されます。

われわれ洋書輸入業者の集りであります所の海外出版物輸入同業会は、つとにこれが防止のため取締方法について、関係御当局と接触を続けて参りましたが、結局は強力なる立法措置をもって対処する以外に方法が無いとの結論でございます。

よってここに事情を申し述べまして、各位の充分なる御理解をいただき、立法措置について格別の御配慮を得られますよう懇願申し上げる次第でございます。」

（続く）

東京の坂と橋と文明開化 (3)

白金の坂と明治学院〔2〕恩寵は限りなく——ヘボンの事績——

丸善・本の図書館 鈴木 陽二

明治学院を語る時、その生みの親であり、初代総理となったヘボンの事績に触れないわけにはいかないが、紙数の関係で彼のライフ・ワーク「和英語林集成」について述べるに止めたい。ヘボン(J.C. Hepburn, 1815-1911)は安政6年(1959)米国の長老教会の宣教医として来日したが、明治6年まで続くキリシタン禁教下で、まずは、もっぱら医療奉仕に従事することになる。生麦事件での負傷者の手当て、名優沢村田之助の脱疽の手術(日本で初めての義足の使用となった)など、およそ18年におよぶ医療活動のなかでおびただしい人々がその恩恵を受けた。

ところで、ヘボンは布教上の必要から和英辞書の制作を考え、様々な困難の中で日本語の採取に精力を注ぎ、編纂の準備を急いだ。たまたま眼病の治療で知りあった岸田吟香(洋画家劉生の父)を助手としてから原稿の整理が進み、来日8年にして遂に、約2万語の草稿が完成し、慶応3年上海で上梓した(「日本横浜梓行」と表示)。この和英辞典における日本語表示は、当然ながらローマ字が使用されている。日本におけるローマ字は室町時代末頃、キリシタン文化の流入にともなって伝わったといわれるが、ヘボンが使用したのは、彼独自の考案になるもの、即ち、ここにヘボン式ローマ字が生まれたのである。なお、岸田吟香には助手の礼として目録の調合を教え、それが後に有名な「精銚水」として売りにだされることになる。明治5年には増補と改良を加えた第2版が、やはり上海で印刷された。次いで明治19年には、第2版に1万語を加えた大幅な改訂増補の第3版が丸善から出版された。この版は、和英が35,600、英和が15,600の見出し語を有する大部のものとなり、そして、ヘボン式ローマ字の綴字法が現在使われている形に確定したのも第3版においてであった。この辞書が日本の学術の進歩に与えた影響は極めて大きく、例えば、初版は幕府が300部、再版は開成所で2,000部買い上げて英学の進歩に資することになり、丸善の版も好評裡に版を重ねた。当時最良の英語辞書として歓迎され流布したばかりではなく、その後の日本の英語辞書制作の上で原典的役回りを

負い、参照され利用されていく。

この時丸善に版權を譲った2,000ドルで明治学院にヘボン館が建設されたのであったが、1911年(明治44年)ヘボンが故国ニュージャージー州で96歳の幕を下ろした丁度同じ9月21日午前5時、このヘボン館は焼失してしまうのである。この偶然にしては余りにも奇妙な符合に、人々は不思議な因縁を思ったものであるが、この頃明治学院に在学し、後ユーモア作家、ジャーナリストとして有名になった生方敏郎によれば、ヘボン館は当時寄宿舍として使われていて、この火災はタバコの不始末によるものであったことを記している(「明治大正見聞史」)。

ヘボンは、キリスト教布教の強い使命感に溢れて日本にやってきたのであろうが、近代化をがむしやらに進めていた当時の日本は、彼から多くのことを吸収し学んだ。44歳から77歳までの33年間、殆ど半生を激動の異国日本でおくり、そのあいだ日本を愛し、日本人に教え、尽くしたその貢献の大きさは、言葉では語りつくせない。それを思う時、彼をつき動かした崇高ともいえる精神に改めて驚きを禁じ得ない。

[参考文献]

高谷道男著 「ヘボン」 1986刊(吉川弘文館)

望月洋子著 「ヘボンの生涯と日本語」

1987刊(新潮社)

惣郷正明編 「目で見る明治の辞書」

1989刊(辞典協会)



ヘボンの辞書のタイトル・ページ
(左が初版で右が第3版)

Letters to JBJA

Term : April 1989—March 1990—その二

November 20, 1989

Mr. Gen Nishiyama, Publication Manager
Pacific West Corporation, AZ, U. S. A.

我々の出版物 “Japanese Photography 1945—1985 (English Ed.)” を日本に供給したい。興味があればオーダーをください。

December 6, 1989

Mr. Peter Henson
Collins Publishers, London

1989 JBJA Directory についての問合せ (Book Development Councilにより知った)

November 27, 1989

Mr. Mike Collins, Publications Manager
Geological Society Publishing House, Aron, England

我々の Society はあらゆる地球科学 (earth science) の研究を奨励することを目的とした、非営利団体である。1990年より我々の出版物を輸出し、売り出そうと思う。日本では個人や法人が直接外国の出版社に注文するのは稀である、と理解している。どのようにすれば良いのか、教えて欲しい。

October 17, 1989

Dr. Regine Lassen
Ernst & Sohn, Berlin, West Germany

我々は civil engineering と architecture を専門とする出版社である。JBIA のメンバーリストを入手したいので、情報をください。

January 10, 1990 (February 23, 1990 付けで 2nd レターが来る)

Mr. George M. Luhowy
GML Corporation, MT, U. S. A.

“Computer Review Database on CD-ROM” の紹介。興味があればその旨を折り返し知らせたい、との旨。

January 8, 1990

Mr. F. Rivoallan, Manager
Édition & Promotion Internationale, Rennes, France

我々は “Export Directory of France” (フランス輸出業者名簿) を世界中の輸入業者に無料で配布しようと思う。JBIA のメンバーにもそれを送りたいので、メンバーリストを送ってください。

January 9, 1990

Mr. Perter Marshall, Export Sales Manager
Pitman Publishing, London

1989 JBJA Directory が欲しい。(Export News, November 1989 のアドを見た、とのこと)

January 8, 1990

Dr. Stephanie Main
Mairs Geographischer Verlag, Ostfildern, West Germany

我々は観光ガイド、地図、地球儀を専門とするドイツを代表する出版社であり、今、日本でのパートナーを探している。日本で、観光関係を専門とする出版社、あるいはその関係の本や地図を配給しても良い、とする出版社と提携したい。そのような会社を紹介して欲しい。

ダイレクトリー委員会からのお願い

JBIA DIRECTORY 1990, page 158 掲載の下記は、総代理店名が記載もれとなっておりましたので、書名のあとに (Kyobunkwan) とご記入ください。

FORTRESS PRESS, U. S. A.

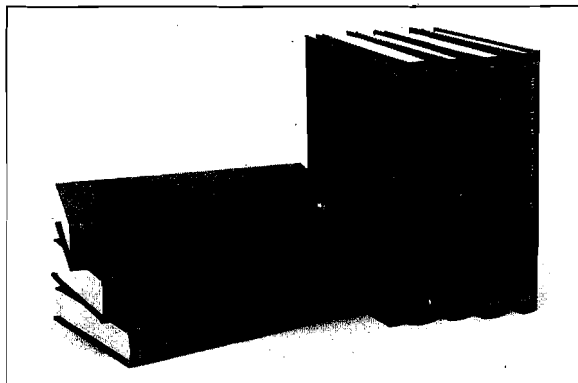
Hermeneia : A Critical and Historical Commentary on the Bible, Av. 18 Vols. (Kyobunkwan)

ロック、ヒューム、ミル等を中心に
英国哲学の古典的名著および
研究書を逐次復刻する画期的な叢書

英国THOEMMES社と紀伊國屋書店の共同復刻企画／

英国哲学思想古典叢書

REPRINT SERIES OF BOOKS ON BRITISH PHILOSOPHY



<内 容 明 細>

- 第1回配本 ディヴィット・ヒュームとスコットランド啓蒙思想 (全8巻)
HUME AND SCOTTISH ENLIGHTENMENT (8 Volumes)
入荷好評発売中 全8巻セット価格 ¥97,920
- 第2回配本 ジョン・ロック研究 (全8巻)
BOOKS RELATING TO JOHN LOCKE (8 Volumes)
入荷好評発売中 全8巻セット価格 ¥87,480
- 第3回配本 19世紀英国哲学論集 (全12巻)
NINETEENTH-CENTURY BRITISH PHILOSOPHY
1990年7月入荷予定 全12巻セット価格 ¥117,000
- 第4回配本 ジョン・スチュアート・ミル研究 (全8巻)
BOOKS RELATING TO JOHN STUART MILL (8 Volumes)
1990年8月入荷予定 全8巻セット価格 ¥71,280
- 第5回配本 18世紀英国哲学論集 (全8巻)
EIGHTEENTH-CENTURY BRITISH PHILOSOPHY (8 Volumes)
1990年8月入荷予定 全8巻セット価格 ¥90,000

(注) 表示価格は税抜き価格です。消費税3%別途申し受けます。

Thoemmes Antiquarian Books／日本総代理店(株)紀伊國屋書店

1990年5月 通巻第278号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫
☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目21番4号 千代田会館5階20号室 ☎271-6901 FAX.271-6920
☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル ☎371-5329